第6回　浜松市未来デザイン会議　議事録

平成26年7月26日（土）2時00～3時13分
浜松市役所本館8階　全員協議会室

1　開　会

（事務局）　ただいまから、第6回浜松市未来デザイン会議を開会します。進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学　根本学部長にお願いします。よろしくお願いします。

2　策定スケジュールについて

（根本学部長）　こんにちは、本日はありがとうございます。この会議も大きな枠組みとしての最終段階に来ています。当然我々だけの議論だけではなく、庁内・議会でも議論される訳ですが、この後市民の皆さんの目から見たご意見をいただくことになります。本日はそのためのパブリック・コメント案についてご議論いただきます。暑い中ですが、真剣かつ真摯な議論になるよう努めますので、よろしくお願いします。

では毎回確認していますように、今我々がどこにいるのか、スケジュールの確認をしたいと思います。事務局から説明をお願いします。

（事務局）　（資料2説明）

（根本学部長）　ありがとうございます。進め方と今後の予定ですが、皆さんからご質問等ありましたらいかがですか。これは手順ですので、こういうことだということでご確認いただければと思っています。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

3　未来ビジョン（基本構想）パブリック・コメント案について
4　第1次推進プラン（基本計画）パブリック・コメント案について

（根本学部長）　それでは議事を進めていきます。本日の一番重要な議事であります未来ビジョン、基本構想のパブリック・コメント案、並びにその基本構想を踏まえた第1次推進プラン、こちらのパブリック・コメント案、両方関連が強いと思いますので、あわせて事務局から説明をお願いします。

（事務局）　（資料3・4説明）

（根本学部長）　どうもありがとうございます。基本構想と基本計画をあわせて説明いただいて、さらに参考資料、これは新しい内容だと思いますが紹介いただきました。委員の皆さんからご意見をいただくということになります。これは確か事前に配布されていますね。ですから説明の時間は決して充分なものではなかったかと思いますが、一応お目通しいただいているということで、すぐに意見交換に入っていきたいと思います。それでは今、説明いただいたパブリック・コメントの案についてご発言をお願いします。重ねての説明になりますがビジョン、基本構想の方は前回の未来デザイン会議の発言を中心に、字句の訂正や言葉遣いを少し分かりやすくしたというのが

大きな修正点だと思います。基本計画の方は、同様に言葉遣いの修正ですとか、行政用語や専門用語であろうという部分には注釈をつけたということです。ですから基本的には内容が大きく変わったということではないと思います。これをこの後、市民の皆さんに広くご覧いただくということですけれども、今、申しましたようにこれまでのデザイン会議の議論がちゃんと反映されていますね、という確認と、最後の段階でここはちょっと直す余地があるのではないか、ということだと思っています。市議会への提案まで時間的な制約がありますので、すぐパブリック・コメント、そしてそれがまたフィードバックされて、この会議や議会での議決に進んでいくのですが、今日いただいた意見で今日この場でコンセンサスがとれるものはこの場で決定したいと思います。どうしても宿題が残るようであれば、次回の最終回に向けて市民の皆さんの意見も踏まえて最終の決着にもっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。ではいかがでしょうか。

（石倉委員）　第1次推進プランの5ページですが、今更になって申し訳ないのですが、「コンパクトでメリハリの効いたまちづくり」と書いてありますが、さらに「中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに交通ネットワークの強化」と書いてありますが、中山間地域にも拠点を作るとどこかに書いてあったと思います。拠点ネットワーク型都市構造というのが中山間地域にも拠点を作るという考え方でよろしいですか。そうですよね。それがちょっと分かりにくいので、こちらの「中山間地域においては」のところに拠点を形成するということを書いた方が良いのではないかという印象を受けました。このままだと中山間地域において行われるのは交通ネットワークの整備と田舎暮らしの推進だけというように思ったのですがどうでしょうか。

（根本学部長）　その拠点というのはどこの件ですか。

（石倉委員）　5ページの3行目。「人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造を目指します」というところです。

（根本学部長）　はい、具体的にこの部分に言葉を足すとか提案をいただけると良いのですが。先ほど言いましたように中山間の施策の方向として、田園で暮らせるということ、交通のネットワークで都市部との交流が　促進する、だから中山間の中でもメリハリをつけたサービス拠点的な機能が規模は小さいけどあるのだということが分かるようにということですか。

そうですね。一応文章構成上は最初の4行で全体のことを言って、次の段で個別の話になっていますから、市全域にわたり、みたいな形容詞を付けるというのはどうでしょうか。つまりこれは単に都市的な土地利用のことを言っているのではなく、市全域にわたってメリハリをつけた拠点ネットワークというふうにすれば中山間もカバーされているというふうに読める気がします。まずはそういう案を一つお願いします。　あとはいかがでしょうか。

（長澤委員）　推進プラン10ページの産業経済のところで「世界の一歩先を行く産業・サービスの創造」ということで、ものづくり、サービスも含めて全体的に書かれていると思いますが、これが出ていく時に、ものづくりとサービス

を分けたらどうかという提案です。ものづくりとサービスを具体化していく中で分かれていた方が分かりやすいのではないかと思います。分けることによって具体的にどんなことをものづくりでやっていくのか、サービスでどんなことをやっていくのかが分かりやすくなるのではないかなという提案です。それからもう一点29ページ「文化・生涯学習」のところですが、10年後の姿の中で新しい産業が創出されているということは書かれているので、だとするとその上の1ダースの未来の中に01も入っていた方がイメージとしては良いのではないかと思います。以上です。

（根本学部長）　2点ご指摘いただきました。29ページの文化・生涯学習の未来の姿には01も入れた方が良いのではないかということで、基本構想の方を見ますと、3ページに1ダースの未来の一つ目「つくる」に見たことのない感動をつくる。ここの1ダースの未来というのは冒頭参考資料の説明がありましたように、1対1に細分化されている訳ではありませんので、色んな領域に関連性が付く訳です。極端に言えばどれもこれも全部12個繋がってしまうと言えなくもないのですが、それではかえって分かりにくくなってしまうので、代表的なものがここにある訳ですね。この子育て教育の施策の体系の中にその未来像の一つとして12のうちの01「つくる」を追加したらどうかということですがいかがでしょうか。ご異論がなければ、まずは追加してみたいと思います。つくるという項目とは関連性が強いという気がしますがいかがでしょうか。

（田中委員）　つくる、創造ですから、人間の関係や産業、両方繋がると思うので、私は入れて良いと思います。

（根本学部長）　ありがとうございます。他はいかがでしょうか。何度も申し上げますように、また再度市民の皆さんの目を通ってまた戻ってきますから、今日の段階としてはこれを追加してみたいと思います。
　前者のご指摘の方は、基本計画10ページですね、ここは産業とサービスが併せて記述されているがものづくりで発展してきた地域の産業の話とサービスの話は少し分けた方が、というお話でしたが、もうちょっと具体的にビジュアルなイメージで提案いただけると良いと思うのですが。

（長澤委員）　はい、主旨としては、これを見た時に産業とサービス、その事業という意味ではくくられてしまうのですけれども、ものづくりであれば新産業、成長産業の部分ですとか、サービスで言うと、まちづくりの形成などが強く関連性があると思います。両方記載してありますが、それを分けることによってより具体的な政策が市民の方に分かりやすくなるのではないかというのが提案の主旨です。

（根本学部長）　他の委員の皆さんから関連のご意見はいかがですか。

（松尾委員）　今の点ですが、どのようにものごとを捉えるかというのもあると思いますが、この先を考えた時に、日本は大量生産の拠点になるというよりは、ものづくりとサービスというものを、多分大量生産とサービスみたいな感じに今のご発言は感じたんですが、そうではなくて多分、多品種少量生産とサービスが連携した格好でのものづくりに、もしかしたらシフトしてい

くのではないかという思いがあって、そこを分けてしまうのは良いことか悪いことかの判断がつきかねているというのが正直なところです。

（根本学部長）　他はいかがでしょうか。

（田中委員）　お二人の意見が出ましたけれども、産業を興すことによって、単純な考えかも知れませんが、それをフォローしていくのがサービスだと思います。ですから折角良いものを作ってもフォローがないと後に続かないということで、私はこのままで良いと思います。

（根本学部長）　他はいかがでしょうか。例えばということで論点をまとめてご提案したいと思いますが、一つの観点としては例えば小見出しを付けて（1）（2）というやり方もなくはないですが、ここでそれをやると、他の施策も全部そうなってくるというテクニカルな問題も考えなければいけません。それはともかく中身の問題として、片や11ページをご覧いただきますと、農林水産業の6次産業化というのも出ています。それからサービスというのをどう捉えるかということも田中委員から、フォローするような、取り囲むようなという、確かにそのようにして我が国のサービス産業というのは発達してきた訳ですけれども、浜松市が掲げている創造都市という話になると、むしろそういったソフトをコアにして産業が広がっていくというようなビジョンもあろうかと思います。そこで色々とご意見があると思いますが、私からご提案ですが少し◆のコメントを精査して、小見出しこそ付けませんが、上半分と下半分とか、並べ方を工夫することはできないかと思いますがいかがでしょうか。どちらかというとものづくり系で発展してきた産業の話を前半、サービス系の産業の話を後半に持ってくる。ただし両者は密接に関連していますから、両方にまたがるようなものが真ん中くらいに来るように。この枠組みを作った後、更に細分化した事業計画のようなものがここに続きます。ですから今日のご指摘はその事業計画に繋げていく段階で、ちゃんと事業部局のどこに責任があるのか、というのが分かるように、繋がるように処理できればと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

では他のご指摘がありましたらいかがでしょうか。

（石倉委員）　推進プラン9ページ下の方にワンストップサービスと書いてありますが、これは注釈を入れた方が良いのではないでしょうか。

（根本学部長）　はい、できるだけ横文字は避けるか、注釈を付けるというのが良いと思います。

（石倉委員）　未来ビジョンの方ですが、11ページ「みのる」「いつでも快適で質の高い生活を」に「ロボットスーツ」と書いてありますが、個人的にここまで限定していいのかなと思います。30年後はもはやこういうのも一新されていたらちょっと時代遅れになってしまう。むしろもっとあいまいな表現が良いかと思いました。

（根本学部長）　前半のご指摘「ワンストップサービス」これは注釈を入れた方が良いで

しょうね。それに限らず今のご指摘は他の部分でも、片仮名、横文字言葉は注釈が必要な部分が出てくるかも知れません。それから2つ目のご指摘の基本構想11ページ、超高齢社会を支える色々な技術的な補助手段が未来社会には出てくると思います。ロボットスーツまで限定してしまわない方がむしろ良いのではないかということですね。これは痛し痒しなんですね。あまり抽象的にしてしまうと分からなくなる、かと言ってこれを書いて実は普及しなかったというとまずいですね。或いはもっと違った形のものが普及するかも知れません。ここは他の皆さんのご意見はいかがですか。私が提案するとしたら、ロボットスーツに限定しないけれども、もう少し幅を持った補助するシステムが他にもいっぱいあります。これはかなりハイテクなイメージで書いてありますが、もうちょっとローテクで、自分で作る自助具なども普及が始まっていますから、広がりを持った記述に直すということで事務局にお引き取り頂きたいですが、他の委員の皆さん、いかがでしょうか。敢えてロボットスーツという言葉だけをここに書くというより、もうちょっと幅を持たせようという提案ですが、よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

では他のところにいきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（河原委員） 東日本大震災があって、防災ということが大切だというのは市民全員が理解している訳ですが、段々日が経つにつれて少しずつ忘れて行くというのも確実な現状であると思っています。推進プランの17ページに「安全・安心・快適」というところがあり、10年後の姿の実現に色々と防災対策が書かれています。また上に10年後の姿として「災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている」となっています。私は社会教育という中だけでなく、これからの社会を背負っていく子どもたちの子育て・教育の中でも防災の教育をやっていく必要があるのではないのかなと思いまして、13ページの子育て・教育を見ていきましたが、防災ということは入ってきません。ただ一つだけ「市民協働による未来創造へのひとづくり」に「学校、家庭、地域が防災・防犯に関する連携を強め」ということだけが入っているのですけれど、ここに防災教育を入れていただいて、通常の教育の中でもやっていっていただいた方が良いと思いました。それからもう一点は、後のことになると思いますが、32ページに「『浜松市未来ビジョン』の実現に向けて、適切な進捗管理を行います」ということで、先ほどここに数値目標を出してやっていきましょうと参考資料2を見ましたので、ある程度具体的に数値目標とか、設問というのを考えていると思いますが、本当に数値目標は難しいし、設問も答えやすい、分かりやすい質問でないと、あやふやになって数値がとても高いけれど実際は微妙なところでちょっと違うのではないかというのもありますので、今の段階では具体的な進捗管理体制はできていないと思いますけれども、数値目標を定めたら現状把握をして、確実に実現できるという体制づくりをしていくということが、この問題に関わった人間としてはとても大切なことだと思いますので、その辺も慎重にやっていただきたいと思います。

（根本学部長） 最初のご指摘、防災、そして教育との関連について他の委員の皆さんい

かがでしょうか。

（石倉委員）　確かに防災の教育の話は入れた方が良いと思います。行政だけが防災を意識するというのは今の世の中ではカバーしきれないというのはこれまで起きた災害の事例でよく分かっていることですので、むしろ行政はきちんと対策もしていくし、市民自体も対策していかなければいけない分野だと思うので、教育という指摘は良いと思います。

（根本学部長）　後はいかがですか。

（石川委員）　大体同じ意見ですが、災害があると自分の命を守ってくれるのは行政だ、助けがないなんておかしいなんていう考えにならないように、主体的に自分の命は自分で守るという術を小さいうちから育てるということはとても大切なことだと思います。

（根本学部長）　防災の政策として教育は重要であるということについての異論はないと思います。ではどこに入れるか私も考えたのですが、教育に期待されることは多々ありまして、おそらく人権教育、環境教育、全部書かなきゃいけなくなってしまうかも知れない。教育に書いた方が良いか、防災に書いた方が良いかとずっと考えていたのですが、防災の方に記述を充実していくというのはいかがでしょうか。例えば防災の18ページの基本政策で、「安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり」という項目がありますね。ここが地域の学校、家庭、教育、職場。ここは消費者教育には触れているのですが、この部分は記述も少ないので、今ありましたように子供の頃から、就学児童の頃からきちんと安全・安心の防災の教育を地域や家庭一丸となって進めていくという記述をここに加えてはいかがですか。更に一委員として個人的な意見を言いますと、色んな意味で社会的な、市民の皆さんが主体的に行う活動の中に防災の機能をきちんと位置付けていくというようなことも記述できると良いかなと思います。色々伝え、訓練もするのですが、それがいざという時に機能が発揮できないこともあります。ですから18ページの記述にもう少し教育ですとか、市民の主体的な参加みたいなものの記述を充実するということを提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ではもう一点の進捗管理のことです。32ページ、数値目標をどのレベルに入れるかは様々です。痛し痒しのところがあって、あまりがちがちにしてしまうと手足を縛られる恐れがありますし、かと言ってあまり抽象的なものだけで終わっていてもいけません。今日は参考資料ということで、単に言葉だけでやっている訳ではないと説明がありました。これも提案ですが、32ページの記述の中に数字そのものを入れるのではなく、可能なものについては数値目標を掲げる等をして、きちんと具体的な進捗管理ができるように努めますというような記述を入れてみたらどうでしょうか。数値そのものを入れるのではなく、客観的指標によって計画の進捗を管理していきますという記述を加えたらと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは他のご指摘・ご意見いかがでしょうか。

（石倉委員）　また細かい話になってしまいますが、第1次推進プラン3ページですが、「未来まで続く持続可能なまち」とあって、「ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスを」と書いてあります。この二つの注釈を見ると、多分一般の方は違いが分からないと思います。行政の意見を聞きたいのですが、わざわざ分ける必要があるのか、意図的にこれは両方書いてあるのかを聞きたいのですが。

（根本学部長）　事務局いかがですか。

（石倉委員）　付け加えると、市民が読んだ時に混乱するのではないかと思いました。

（事務局）　ご指摘の通り、ちょっと分かりにくい点がありますので、もう少し分かりやすいように整理をしたいと思います。

（根本学部長）　これは概念が被るので、記述上の工夫をしてみることをお願いします。後はいかがでしょうか。

（松尾委員）　まず未来ビジョン5ページの「いかす」ですが、「地の利を活かしたエネルギー」3行目に「ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ」とありますが、これはできれば逆にしていただきたいと思います。「研究開発が継続的に行われ、ものづくり産業の技術力によって」と記述した方が良いと思います。技術力という言葉と研究開発という言葉では研究開発が本来先にあるもので、その後に技術が出てきます。これだと逆かと思います。また、触れるべきか迷っていることがあるのですが、地の利を活かしたというのは確かにその通りで、太陽光、バイオマスなどは地の利で良いと思うのですが、現実にこの先ここで使っていかないといけないエネルギーを考えると、地中熱、潮力、波力が絡んでくると思います。ここに書くべきなのか、一番下の多種多様なという言葉の中に入っているのか、ただ入っているにしても何も触れていないと、気が付かないまま終わってしまうかもしれないので、例示を少し上げるかというような書き方をするか、どちらが良いか分かりませんが、それがずっと気になっています。それからそれの関係で、推進プランの方でも同じところを思っていまして、その辺を例示して上げるべきか、多種多様の中に入っているからそのまま済ませるべきか、というのを思いながら見ています。

（根本学部長）　一つ目のご指摘は5ページ4行目5行目です。確かに一般的にはまず研究開発があって、技術が実現していくということだと思いますので、これはご指摘のような修正でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

2点目のことですが、実はこれも申し上げようかどうか迷っています。コーディネーターというのは着地させる役割なのですが、あえて広げてしまうと、水素エネルギーという話も出てきていますね。未来ビジョン会議の中でも核分裂というのは未来技術ではなく、むしろ未来は核融合じゃな

いかという指摘もありました。ここはあまりこれとこれをやります、それ以外はその他諸々というように、あまり限定的に書いてしまうと、可能性がむしろ狭まることになりはしないかと思いました。ただ地の利を活かしたということでは、確かに日本一日照時間が長いとかいう有利な点がある訳です。ご指摘いただいた多種多様な再生可能エネルギーに注釈を付けるという手法もあります。再生可能エネルギーとは、と書いて、注釈として太陽・風力だけではなく、潮力、波力、地熱などが入ると注釈を付ける、あるいは本文中に展開して書いても良いと思います。いずれかで対応できます。今ご指摘いただいた地の利ではないかも知れませんが、色々な再生可能なエネルギー源を未来の社会ではどんどん開拓して使うように努力しましょうというのが分かるような記述をしたらいかがかと思います。関連して何かご指摘はいかがでしょうか。

（石倉委員）　関連して、と言えるかどうか分からないですが、多くの市民が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しているというふうに「いかす」には書かれているのですが、これは4段落目の2行目、市民と書いてありますので、企業を付け加えてほしいと思います。市民より企業が電力を使うというのはあると思います。市民は再生可能エネルギーを使っているけど、企業は資源が有限なエネルギーばかりを使っているというのはおかしいなと思いますので、できる限りですが、企業を入れたらどうかという案です。

（根本学部長）　ご指摘の点は、同じ5ページの下から5行目「住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーを融通しあう」という記述があります。これは融通し合うということですね。地の利という意味ではご指摘の通り、民生利用だけではない。製造業、交通運輸も入ります。広く解釈すれば、企業市民も含むという解釈もできなくもないけれども、これは言葉を足しても良いかと思いますね。むしろまとまった対応ができるというのは逆に企業の方が有利な点があったりしますね。先ほど違う場所で農業の6次産業化という話もありましたが、中山間においてもやはり、全部がそうなるということはあり得ないですけれど、自然再生エネルギーの得られる候補としてあると思います。ここは市民と書いたものが民生用の日常生活という意味にならないように、農林水産業も含む広い産業、製造業・運輸・流通全て含むあらゆるところで再生可能エネルギーが選択されているという記述を提案したいと思います。他はいかがでしょうか。

（石川委員）　色んな問題が上がってきていますが、その中の一つとして少子化の問題が、今後の行きつく先によってはとんでもないことになるかなと思っています。推進プランの13ページ以降を読んでみますと、記載してあることをしっかり実行していくことができれば、おそらく少子化も止まるのではないかと思います。また子どもの貧困問題が最近よく取り上げられます。先進国の中でも日本は突出して貧困率が高いというニュースを最近よく聞きます。母子家庭を中心に、考えられないようなお金で生活している、教育も受けられない、或いはテレビの特集でやっていましたが、インターネットカフェに何年も住んでいるような高校生がいるという話も聞きました。そういったことが結果として解消されていくのではないか、そういった文言をどこかに入れると良いのではないでしょうか。乳幼児期の教育に力をいっぱい注ぐと、病気の減少、犯罪の減少、抽象的ではありますが間違い

なく住みやすいまちに繋がっていくと言われています。そういった辺りの教育を具体的に考える、或いはそういったものをすべてひっくるめてですが、子どもが健やかに育つという中に環境という意味合いでも、その中に教育或いはこういった13ページ以降書かれているような内容も含めて環境を位置づけて、子どもが健やかに育つ環境として位置付けて少し文章を整えられると良いのかなとイメージしてみたのですが、いかがでしょうか。

（根本学部長）　他の委員の皆さん、関連でいかがですか。石川委員、できましたらもうちょっと具体的に、どのパーツにどういう記述を加えたら、という提案をいただけると良いかなと思いますがいかがですか。

（石川委員）　貧困問題、少子化問題を目標に掲げてしまいますと、複雑なところが出てくると思います。結果としてそういうところに繋がったということでいいのかなと思います。敢えて目標として掲げるのではなく、結果として繋がるという、そういったものが解消に繋がるという。大きな問題だと思っていますが、そのために市民の皆が小さな行動でも良いので、何かしらの行動が大体上がっていると思いますので、結果としてそういった言葉が入れば良いのではないか。その言葉が入っていないのが気になるということです。

（根本学部長）　関連して他の皆さんいかがですか。

（須藤委員）　関連してですが、私も教育の分野では色々発言させていただいて、できてきたものでは大体網羅していただけているという感触を持っています。多分今の石川委員のご発言の中では未来ビジョンの「はぐくむ」10ページに書かれているのは本当に素晴らしいと感じていますが、実際にそういうことがあったのだけれども、それを解消する努力がされているという言葉がどこかに入れば、多分ご心配がなくなるのではないかと思います。書かれていることは将来的にはとても良いことだと思いますが、実は現状がどうかというのがないので、前はこうだったけれどもそれを解消するためにこうされているという言葉が入ると良いのではないかと感じました。

関連のない事でもよろしいですか。先ほど防災についてのご意見が出ましたが、家で見てきた時には気が付かなかったことですが、他の委員のご発言を聞いて思いついたことですが、推進プランの18ページ19ページ辺りに防災について書かれています。現在でもほとんど自治会が自主防災隊を形成していて、非常に地域防災訓練ですとか、日ごろの防災のあり方について真剣に取り組んでいると感じています。今現在でもそうですから、これから先に向けてもっと自治会或いは自主防災隊の活動が非常に盛んであるということをどこかに入れていただけると良いと思います。18ページの、先ほど根本先生がおっしゃいましたけれど、真ん中あたりの消費者教育、そこに防災教育を追加したらどうかというご意見がありました。そこに併せて教育すると同時に、防災については非常に積極的に訓練なども行われているというのも付け加えたらどうでしょうか。せっかく一生懸命にやっている自治会の皆さん、私も地域で駆り出されたりする訳ですが、自治会という言葉が出てくるのは消防団員の確保への努力だけになっているのは非常に寂しい。これからもっともっと頑張っていただくためには、元気付けるためにも工夫をしていただけたらと思います。

（根本学部長）　後半の点ですが、18ページのところで先ほど教育との関連のご発言がありました。それだけではなくて地域自治、自助共助公助という言葉もありますが、そういう主体的な市民の地域活動による防災の取り組み・訓練という記述をここに併せて追加したら良いのではないかということですね。これはどうでしょうか。ご異論はないのではないでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

これは是非入れましょう。それから戻って、一つ目のご指摘で、これは石川委員のご発言とも関連するのですが、基本構想、ビジョンの10ページに「はぐくむ」という将来像があります。ここでは最終的にこういう施策を重ねていけば、合計特殊出生率も少し戻るのではないか、そしてみんなが子どもを地域で育てはぐくむ社会に30年後はなっているだろうと、それは書いてある。それは書いてあるが、石川委員と須藤委員のご指摘は、少し文言を工夫して修文できるのではないかと思います。この場で言葉まで出ませんが、先ほど出ましたいくつかの課題を乗り越えて、そしてこの望ましい未来像に至ったのだという記述、これはできるのではないか。それから石川委員のご指摘のように、施策を実施していくことによって、その結果として安心して子どもを育てる社会に至る、そういう記述を10ページの「はぐくむ」のところに書き加えたらどうかと思いますけれどもいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

よろしいですか。ありがとうございます。
それでは他にはいかがですか。大分突っ込んだご指摘もいただいています。もしよろしければここで一旦論点を整理しておきたいと思います。私も全部記録を取っていないので、これと、これとこれ、と全部述べるということはできませんが、まず確認したいのは、大きい枠組みの議論、それからこれまでこの会議で重ねてきた意見はそれなりにきちんと反映されているというところはよろしいですか。その上で今日改めて気が付いたところをいくつかご指摘いただいて、私からの提案ということも含めて、事務局にお願いしたい点をお話ししたかと思います。現在までのところ幸いにして宿題にして残さざるを得ないということはなかったと思っています。何とか良い方向に修正が施せるのではないかと思っています。ということでパブリック・コメント案の修正については大体よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

何度も同じことを言っていますが、この後市民の皆さんの意見を踏まえて次回が最終になります。次回に向けて更に我々も読み込んで、言い忘れがないようにきっちり集約できればと思います。では全体を通じて市長さんからお願いします。

（鈴木市長）　どうも皆さん熱心なご議論ありがとうございます。会議を重ねることによって随分ブラッシュアップされてきて頼もしく思います。今回30年後の浜松の未来についてスタートしましたが、皆さんもご存知の通り、つい最近、日本創生会議の増田レポートが出まして、これもやはり30年後の自治体の状況を克明に分析して、自治体の約半分が人口の激減で消滅可能性都

市と位置付けられ、本当に自治体にとってかなり衝撃的なレポートだったのですが、私のところにも随分取材が来ました。浜松市はどうですかということですが、そこまで将来を検討した訳ではないと思いますけれども、この地域は平成17年に12市町村が合併しまして、ですから今ここの近隣で消滅可能性都市としてリストアップされたのは森町だけです。逆にいうと浜松市が合併したことによって、消滅可能性都市というのは消滅した訳ですが、そういう都市が持っていた問題点を浜松市はすべて内在、包含したということですので、30年スパンでこのまちをどうしていくのかという視点で取り組んだことは当を得ていたと思います。もう一点、こちらは朗報ですけど政令指定都市を全部調べたら浜松は健康寿命男女とも日本一だということが、厚生労働省の調査で判明しました。こちらも時々取材が来ます。なぜ浜松は男性も女性も健康寿命が長いのかと。取材者の分析では、喫煙率が低いことと就業率が高いということが書いてありましたが、それだけで日本一になったとは思えないので、私はやはりトータルで浜松は住みやすい、ストレスが少ない地域だと思います。転勤族がよく色んな地域をまわって、浜松は住みやすいからと終の棲家にしていただくケースが多い訳ですけれども、そういう点でも健康寿命日本一に結びついているのではないかと思います。住みやすさという点では浜松はとても良い。その良さを残していくためには、このビジョンで掲げられているような施策を積み重ねることによって、引き続き健康寿命日本一の都市を目指すということだと思います。後は市民の皆さんからパブリック・コメントをいただいて、最終的にまとめ上げていくということで、引き続きあともう少しご尽力いただきますようにお願いいたします。

（根本学部長）　私もニュースを見ました。正に市長さんがおっしゃる通りで、折角浜松の持っている素晴らしい面が持続するように、この計画がきちんと機能していくということを我々も見守っていければと思います。それでは議論はここまでとして、進行を事務局に戻します。

5　閉会

（事務局）　ありがとうございました。これをもちまして、第6回浜松市未来デザイン会議を閉会します。次回、第7回は平成26年10月25日土曜日、午後3時から、会場は同じ全員協議会室にて開催しますので、ご案内します。それでは、お気をつけてお帰りください。